



水野久一郎先生



【発行所】愛知教育大学
附属名古屋中学校同窓会
460-0003 名古屋市中区
錦3-13-17 田中ビル2階
電話 052-951-3225
FAX 052-951-3215
E-mail: info@fuchu.gr.jp

附中の校歌は、制定以来多くの先輩諸氏から歌い継がれ、現在就学している生徒たちにも心から愛されている名曲です。

この度、制定に際してご尽力いただきました愛教大水野久一郎先生の業績を讃えるべくご芳名を明示したいとの声が寄せられ、新しく校歌の浄譜、印刷をすることにいたしました。ここに作曲をいただいた水野先生のご尊顔を掲載させていただきますとともに、当時、附中の校歌制定にご尽力いただきました先生方を代表して、作詞を担当していただいた国語科の小川 守先生、初演に関わっていただきました音楽科の大西鏡一先生に「新校歌の制定」の思い出を特別に寄稿していただきました。

副校長 伊串 博

附中校歌 今新たに輝く

作曲者名を明示することに



このたび、附中の校歌の作曲者名を明記して、楽譜を印刷されることになり、心から喜び申しあげます。

前々から附中の校歌につきましては、大変評判がよく、実際に誰が作ったのか知りたという声を多く聞きました。今回、作曲者が水野久一郎先生であることがはっきりして何よりと思っております。



これを制作する時点では、色々

昭和四十一年四月に、法律の一部改正により、大学の名称が愛知学芸大学から愛知教育大学に変わり、附属の名称もそれにつれて現在のように変わりました。この新しい名称は附中の再出発にふさわしいものでした。

そこで、新校歌・校旗の制定をすることになりました。前校歌は、大変立派なものでしたが「学大の附属中学」と

な事情があつて、学校で作るのがいちばん妥当という結論になり国語科と音楽科が担当することになりました。音楽科のほうはずぐ、同じ大学内の水野久一郎先生にお願いし来たというのでしたが、国

語科のほうは、同じ大学内に難しい事情があつて依頼することができず、やむをえず自分たちで作ることになりました。必死でした。前の校歌に優るとも劣らない歌詞を作らねばと、全力で歌詞に取り組みました。その間の苦労話は枚挙にいとまがありません。

ただ一つ、水野先生と何回か打ち合わせをする中で「作詞の構想や意図と作曲者の構想や意図が、本当に一致した

という一節があつて、新校名に一致しない事や、他にも現実にとぐわらない歌詞もあり、前校歌は、そのままにしておいて、新しい校歌をつくることになったのです。

そこで、まず作詞ですが、国語科が担当することで当時主任だった小川守教授が中心になってできあがりました。つぎに作曲ですが、それは音楽科ということで、私と池田教授が骨折り、大学の水野久一郎教授にお願いすることになりました。水野教授は、

作詞の主張と作曲家の主張が、相容れなければ、よい歌はできないという持論で、かなり作詞の方と作曲の方とで話し合いが行われました。そして、

ときに、はじめていい歌が出来たものだよ。」と云われ、ひどく心を打たれたことを覚えております。

そんなこともあつて先生とは、かなり突っ込んだ話し合いをしました。その一つに、校歌の中間部の最初の一節は、歌詞より先にメロデーが出来

「これを入れない」とピアノを弾かれました。そのメロデーにぞっこん惚れ込み、

現在のようになすばらしい芸術的な校歌ができたのです。

それも同じ学内であったからできた事と思っております。

曲はユニゾンの曲と混声三部合唱の曲と二種類作曲していただきました。昭和四十三年一月三十一日に、新校歌制定式が、大鵬館で行われました。勿論、作曲者の水野教授夫妻を、お招きし全校生徒で混声三部

合唱の新校歌を、高らかに歌

中間部の歌詞を全面的に改めたことを覚えております。同じ学校であつたればこそ、こうしたことが出来、水野先生のすばらしい作曲によって、立派な校歌となったことを心から嬉しく思っています。

小川 守

いあげました。水野教授夫妻も大変喜ばれ、「練習時間が少なかったのに、すばらしい合唱でした」と激励の言葉をいただきました。それから、ずっと新校歌が附中生活の中で歌い継がれているのです。

大西 鏡一